

あすなろ通信 48号

編集 NPO法人みよし子育て・学び支援あすなろ

事務局 〒728-0006 三次市畠敷町 36 番地 7

(TEL 0824-55-6301 FAX 0824-55-6302)

HP <http://asunaro-juku.sakura.ne.jp>

発行日 2022年9月22日

今月のことば

事を成し遂げる秘訣は、

ただ一つの事に

集中することにある。

エイブラハム・リンカーン

(米国第 16 代大統領)

あすなろ塾の今

入塾生徒数の状況

今年度は四月当初に一年生四人、二年生五人、三年生七人の計十六人でスタートしましたが、その後、二年生一人、三年生一人が新たに加わり、現在は十八人が在籍し勉強に励んでいます。生徒たちは意欲的に学習に取り組んでおり、補講を希望する生徒には通常開塾時間外の補講を実施しています。

今年度の入塾状況の特徴として、一・二年生は全員が八次中学校の生徒であることがあげられます。地域に根ざした塾として認められつつある証拠と喜ぶ反面、授業料減免率が 80% を割る現状は、必要としている生徒や保護者にあすなろ塾の開塾精神が伝わり切っていないのではないかと考えています。

四月には八次地区の民生委員の集まりに松本理事長が出席して、「経済格差を教育格差にしない」というあすなろ塾の開塾精神を周知してもらう機会を得ました。

家庭訪問の実施

七月二十三日、二十四日の二日間で家庭訪問を実施しました。「家庭訪問をする塾など聞いたことがない」と思われるかもしれませんが、あすなろ塾では家庭訪問を大事にしています。それは、塾や学校の間では見ることがない子どもの姿や、子どもの抱える課題を家庭訪問を通じて初めて知ること多いからです。これまででも家庭訪問によって把握したさまざまな課題を子どもたちの指導に活かして来ましたが、今後も家庭訪問はあすなろ塾の活動の大切な柱として取り組んでい

いきます。

馬洗川クリーン作戦の中止

九月四日(日)に計画していた馬洗川クリーン作戦は、緊急事態宣言こそ発令されていませんでしたが、コロナ感染が急拡大し、三次市においても三桁の感染者が報告されるに至りました。感染拡大防止の観点から、中止を決定しました。生徒だけではなく、参加のため仕事等の調整をして準備していただいていた保護者や家族のみなさんにあらためて感謝しております。

これで三年続けての中止となりましたが、支援していただいているみなさんへの感謝を表す機会として「クリーン作戦」は来年度以降も引き続き計画し、実施していきます。

引越

あすなろ通信第四十七号の総会報告の中で、現在の塾舎の契約が来年三月で完了することを報告しておりましたが、このたび新しく入居する建物の賃貸契約を正式に結ぶことができました。来年三月までには内装の整備、荷物の整理を整え、新年度のオリエンテーションは新塾舎で開催する予定で準備をしています。

私たちはあすなろ塾の設立精神である「経済格差を教育格差にしない」ことの意義を再確認し、この精神を具現化できるようにスタッフ一同全力で取り組む所存です。皆様のさらなるご理解、ご支援をお願いいたします。

三年生の作文から

三年生にとっては中学校最後の夏休みが終わり、いよいよ受験本番となりました。今の思いと、将来の展望を作文してくれましたので紹介します。

中学校生活最後の夏休みを終えて

A 私は今年の夏休みを過ごして感じたことが二つあります。

一つ目は、今までより忙しくなったことです。今年は夏休みで勉強に差がつくと知り、予定の空いている日に勉強会を入れました。勉強会をしていく中で、私は家では全然勉強ができていないということに気づきました。家では集中力がすぐ切れてなかなか勉強が続かなかったり、やる気が出なくて投げ出してしまっていました。しかし、塾で勉強をすると宿題も、時間があるからきちんとやろうと思えたり、分からないところは友達や先生に聞いてみたりして、勉強が少しだけはかどった気がしました。

二つ目は、高校のことについて考えるようになったことです。今までは、受験はまだまだ先だしいいかという気持ちもあり、後回しにしていました。しかし、塾の家庭訪問もあり、オープンスクールに参加してみたことで自分はどこに行きたいのか、そこに行くには何を頑張ればいいのかなどを具体的に考えるようになりました。オープンスクールではどんな高校なのかを丁寧にその学校の先輩方が教えてくれました。

私は中学校生活最後の夏休みを過ごして、勉強とこれからについて考えるようになりました。勉強は早い方がいいと言われますが、夏休みでこの意味がわかったような気がしました。取りかかるのが遅いと理解も遅れ、自分の力を伸ばすことが難しくなります。しかし早めにより始めることで、自分はどうなところまでできていなかったのかが分かり、何回も繰り返しすれば、十分に受験にも備えておくことができると思いました。これからは、この夏休みで気づいたことを忘れないように、勉強を怠けないように頑張っていきたいです。

コロナなんかには負けない

B

私が中学校に入る前から、新型コロナウイルスがはやり始め、感染者数が急が増えていました。コロナで変わった中学校生活はいくつかあって、一つ目は、小学六年生から中学一年生まで五ヶ月くらい学校が休校になり、コロナの怖さが分かりました。中学生になって、運動会が二回とも中止になって、とても楽しい気持ちにはなれませんでした。

次に、学校の授業では、リモートでやる人が増えました。私もリモートになって、「友達に会えないのは悲しい」気持ちになりました。次に、部活動の方では、大会などが減ったり、練習が少なくなったりして、思うとおりにならないことが多くありました。

コロナの影響は、学校生活以外でも辛かった事がたくさんありました。それは、友達と遊ぶことができなかったり、家族

と出かけることも少なくなっていて、楽しい思い出が指で数えるぐらいしかできなかったことです。買いたい物が買えなかったのも、とても辛かったです。今でもコロナが増えつつあって、もし感染して勉強ができないと遅れが出てくるから、自分でできる感染予防策をしながら頑張っていきたいです。

私の将来の夢

C

私は将来、バレーボールに関わる仕事がしたいと思っています。私は、三歳の頃からバレーボールに興味を持ち、小学二年生の時にクラブチームに入りました。小学生の頃は、西播大会で優勝し県大会三位になったり、近畿大会にも出場することができました。中学校では、北部支部準優勝などの成績を残すことができました。バレーボールを通して、仲間の大切さ・運動能力や体力も身につけ、バレーボールだけではなく、あいさつ・礼儀やマナー・人との接し方も学ばせてもらいました。また、広島県選抜にも選んでもらえて、とても良い経験をさせてもらいました。

将来、バレーボールに関わる仕事をしたいので、もっとバレーボールについて学ばないといけないと思うし、もっと学力をつけたいと思います。バレーボールのルールだけでなく、歴史や文化についてもたくさん知りたいです。今、私ができることは、受験生としてしっかり勉強をして、自分の行きたい高校に行けるようにすることだと思います。家庭学習にも取り組んでいきたいです。

私の将来の夢

D

私の将来の夢は、仕事と趣味を両立させることです。

私のなりたい仕事は、救急救命士です。なぜ救急救命士になりたいかというと、命の最前線で戦う救急救命士にあこがれているからです。救急救命士を知ったきっかけは、ある一つのドラマからでした。そのドラマでは救急救命士がとても輝いて見えました。そこから私は、救急救命士にあこがれるようになりました。

私の趣味はイラストを描くことです。なぜイラストを描くようになったかというと、中一の頃に友達に絵が下手と言われたからです。それを聞いて私は努力して上手くなろうと決めました。今では、イラストを描くことがとても楽しいです。救急救命士は命が助かるかどうかという最前線の現場に向かうので、辛いことが多いと思います。辛いことをそのままにしていたら自分が壊れてしまうかもしれません。趣味と仕事を両立させることで、自分自身も健康に仕事に取り組むことができると思います。

とはいえ、救急救命士になるためには多くのことを学ばなければなりません。今は、学校の勉強を頑張り、確実に身につけておくことが大切だと思います。塾に来て、学校の試験対策はもちろんですが、学ぶ姿勢も身につけておきたいです。また、女性が救急救命士になるのは一層大変かもしれません。しかし私はそんな特別の壁を乗り越えて救急救命士として格好良く生きていきたいと思っています。

感謝・感謝の夏

E

私はこの塾に入ってから来て多くの事を学びました。色々な学校から来ている人がいて、性格も十人十色でした。そこで色々な人がいるのだなと思いました。

そして先生方にも多くのことを学ばせていただきました。あすなろ塾の先生方は礼儀や言葉使いが丁寧で、まじめな先生方でした。自分もそれを見習って言葉使いや礼儀など非常に多くの事を学ばせていただきました。もちろん勉強面でも手厚いサポートをしていただき、生徒一人ひとりに熱心に勉強を教え込まれていました。そんな熱い情熱を持った先生達を見て私は感激しました。

私は今まで教師になろうと思った事はありませんでした。しかし私は夢を持った将来を歩みたいと思いました。自分にしかできない事を精一杯頑張りたい。今からする決断に後悔の念が残らない様に、自分に自信を持って歩んでいきたいです。



私の将来の夢

F

私の将来の夢はシェフです。

私がシェフになりたいと思うようになった理由は三つあります。

一つ目は、小学校四年生の授業で、カレーを作ったとき、先生に「上手だね!」と言われて、料理が好きになったからです。

二つ目は、小学校や中学校で家庭科の先生に調理実習のときに、「期待してるよ」と言われました。ほんとうに、私が料理を上手だと思ってくれている先生の期待に応えたいと思ったからです。

三つ目は、今年から、SNSに、作った料理を上げるようになりました。すると、みんなから、「上手」、「うまいね」、「食べてみたい」と言われるようになったからです。また、友達から、「これ作って、あれ作って」と言われ、友達のおかげで料理のレパートリーが増えました。そして、食べた人が、おいしいねと言ってくれて、うれしかったです。私の作った料理を食べて笑顔になってくれることに大きな喜びを感じるようになったからです。

そして、夏休み中に僕が行きたいと考えている高校のオープンスクールに参加して、和食調理中級をもらい、励みになりました。

これからもっともっと勉強して、なんとしてもその高校に合格したいです。

二学期に入って

G

私は高校受験がなく、そのまま高校に進学します。

しかし、高校では受験をして来る生徒と一緒に学ぶことになります。

彼らは受験生なので受験前最後の夏休みである今、自分よりも一生懸命勉強しています。その人たちと一緒に勉強するとき自分が三年間の復習をしていないせいで、勉強で困ることがあつてはいけません。だか私は二学期から受験生と同じように一、二年生の復習をして、受験で出題される問題を解こうと思います。

今塾では受験生と同じ授業をしています。教科書の内容が終わったら、三年間の総復習のプリントがあります。そのプリント集は自分の力を知ることができて、何回も繰り返し返して完璧にすることで、定期テストや高校の勉強でもとても活きてくると思います。

学校の授業では高校の先生が教えてくださる教科もあります。普段受けている授業はとてもありがたいということが分かりました。自分がいる環境に感謝して、二学期以降の勉強をより一層頑張ろうと思います。

オープンスクールに行ってみて

H

私は、今中学三年生ですが正直に言ってしまうと行きたい高校が見つかっていません。友達の中には、「格致行きたい」だとか「三高がいい」と話しているのを耳にします。しかし、まだ行きたい高校が見つからない私にとっては、いいなあと思ってしまうだけなのです。

私は中学一年の時に基町高校に行きたいと思っていました。しかし、その時の担任の先生に「この点数でもまだ難しい。」

と言われました。そこから成績は落ちていき、ネガティブになってしまいました。

今年の春に学年主任の先生から「行きたい高校があれば夏休みに積極的におープンスクールに行ってみよう」と言われました。しかしそのまま夏休みが近づき、どの高校のオープンスクールも締め切りになってしまいました。私は行きたい高校が二つありましたが、申し込みできませんでした。夏休みが始まって一週間が過ぎた頃、担任の先生から「オープンスクールに行かないのか」と言われました。私が申し込めなかった理由を言うと先生は「行きたい高校があるか」と聞きました。私は日影館と三高に行ってみたく答えました。すると先生はその二つの高校のオープンスクールを申し込んでくれました。私はとても嬉しくなりました。

三高のオープンスクール当日。私は少し楽しみでした。三高は親に行けと言われていた学校です。私は少し嫌でした。なぜなら三高は頭が堅そうなイメージがあったからです。しかし、調べてみるとすごく活気があつて楽しそうでした。調べたとおり三高はおもしろそうで行ってみたいと思いました。

次の日は日影館のオープンスクールに行きました。その高校は私の近所の子が通っていて「明るい学校だ」と言われ、行きたくなりました。行ってみると生徒が引く張っているような学校でした。

受験まであと半年しかありませんが、まだ行きたい学校があるのでオープンスクールに行ってみたく思います。そして行きたい高校を絞ってそこを目標に頑張っていきたいです。

2022年度 塾 生 募 集

あすなろ中学部

○少人数&個別指導で学べます。

○コースは2種類。

◇英数コース(週2回)

月14,000円

◇理社コース(週1回)

月6,000円

○授業料減免措置があります。

◇ひとり親家庭は半額免除

◇生活保護家庭は英数コース 月2,000円、理社コース 月1,000円

○あすなろ塾は授業料以外の経費(テキスト、模擬試験、夏季講座等)は徴収いたしません。

入塾受付

期間 随時(ただし、火・水・金曜日)

時間 16:30~18:00

場所 あすなろ塾

○電話でも受け付けます。

TEL 0824-55-6301



大人の役割

影山克典

「近頃の若いもんは…」

かつて読んだ星新一のショート・ショートに以下のような内容の作品があったと思う。「ある古代遺跡が発掘され、粘土板に書かれた象形文字を解読すると『近頃の若いもんは…』と書いてあった」というもの。これが史実に基づくものかどうかはわからないが、古代ギリシヤの大哲学者プラトンの書にも「近頃の若いもんは…」という文章があるという。日本では平安時代の中期に書かれた枕草子(清少納言)の中にも「最近の若者は…」という文章がある。

私たち人類は太古の昔からこの言葉を発し続けてきたようだ。

この「近頃の若いもんは…」に対する言葉として思いつくのは「これだから大人は…」、「これだから年寄りには…」というものである。おそらくこの言葉も太古の昔から発し続けられてきたと推察できる。

「生徒とのかかわり方」

私は高校現場で四〇年、塾へ来て七年以上となるが、この間中学生、高校生と彼らの学びをプロデュースする側としてかわつてきた。その中で考えさせられてきたことの一つに「彼らとのかかわり方」「大人の役割」というものがある。生徒にかかわっていく場合、よく「生徒の目線に立って…」とか「生徒の気持ち

ちに寄り添って…」とか言われる。確かにその言葉は美しいし、正しいと思う。しかし、私は生徒でもないし、友達でもない。生徒の口に出す思いも正しいとばかりは言えない。だからこそ、生徒の気持ちや責任を放棄するのは無責任だと思ふ。私は先の言葉は大人としての生徒とのつきあい方を確立しながら活かしていくべきものと考えている。しかし、具体となるとケースバイケースでなかなか難しい。

「対立こそ健全さのあらわれ」

かつて私は、あすなる通信の三二号の巻に「教育とは何か」というテーマで自身の考えを書いたことがある。そこで「人類はこの世代交代システム、とりわけ『教育』によって『文化』という身体外遺伝系を創り、継承し、そして社会を更新し、進歩(?)を獲得してきたといえる」と書いている。ここで言う「更新」とは、古い価値観と新しい価値観がぶつかりながら止揚(アウフヘーベン)され、新たな社会が創り出されていくということだ。

だから、いつの世も新しい世代と古い世代の衝突があり、これがあることで人類社会は健全に発展していくと考えられる。古い価値観も新しい価値観もそれらのどちらか一方が善でも悪でもない。ぶつかり合うことにこそ意義があり、そこから別の新しい価値観、社会が生まれていく。太古の昔から「近頃の若いもんは

…」と「これだから大人は…」、「これだから年寄りには…」の対立があるのは、まさに人類社会が健全に発展していることの証と考えられる。

「大人の役割」

以上のように考えてくると自ずと「大人の役割」の輪郭が見えてくる。私の考える「大人の役割」とは「大人の価値観を胸張って生徒に提示することだ。ただし、目の前の生徒の示す言動を無理矢理押しつづすことなく、それらの背景を探っていくことを忘れてはならないことは論を俟たない。大人もなかなか大変だと思うが、それが大人の責任だからしかたがない。これからはボツボツ頑張ろうと思う。

「支援していただいている企業・団体」

- ・ミヨシ電子株式会社
(三次市東酒屋町)
- ・(株)三次衛生工業社
(三次市四拾貫町)

「支援していただいた皆様」

- ・瀬川順子 (三次市三良坂町)
- ・小根森直子 (三次市十日市東)
- ・半田孝江 (三次市三良坂町)
- ・笹田富子 (福山市水呑町)
- ・匿名 (三次市三良坂町)
- ・匿名 (庄原市)
- ・匿名 (三次市高杉町)

NPO法人あすなろ・賛助会員募集

賛助会員：ボランティア活動は出来ないが、寄付金等でご協力できる企業や個人

個人年会費：1口(5,000円)以上

企業等年会費：1口(10,000円)以上

特典：あすなろ通信送付(年3回発行)

問合せ：あすなろ通信の発行住所と同じ(TEL・FAXとも)